

インターバンクの声（2014 年 12 月 10 日）

昨夜のニューヨーク外国為替市場での円相場は、文字通りの乱高下となった。今朝起きて目の前のレートだけを確認すれば、何事も起きていなかったかのような 119 円台後半の水準。117 円台に突込む場面があったとは、情報端末を確認するなりニューヨーク時間担当の同僚からの報告があるまで想像すらし難かった値動きだ。しかも、119 円台から 118 円割れへの下落、そして 119 円台へと回復する展開が僅か 1 時間半足らずの間に起こっているのだ。さぞかし肝を冷やしたディーラーが世界中数多くいたに違いない。こうした年に 1 度か 2 度位しかないような相場を乗り切ってこそそのディーラー業務だが、運悪くこうした局面後にその職を解かれるディーラーも少なくない。少々の損失額は理解される場合が多いが、全くマネージ出来ていないと想定されるような損失を出してしまえば中々擁護は難しい。最近目にしたニュースでは、多くの金融機関で為替ディーラーなる職種をやめて、電子頭脳に置きかえることを検討しているらしい。昨晚のような急展開の相場に電子頭脳がどう立ち向かえるパフォーマンスを出したのかを見てみたいものだ。人間の力を余りに過小評価するような、こうした考えを持つ金融機関では、よほど優秀なディーラーに今まで恵まれていなかったのだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。